

イベント情報
(1~3月)

い業研究所

・2/18(木)
「い業研究所活動報告会
～異業種との連携による
オープンイノベーション創出と
アグリビジネス支援拠点を目指して～」

天草農業研究所

・2/18(木)
「天草地域農業普及・振興活動及び試験研究成果発表会」

高原農業研究所

・2/17(水)
「阿蘇地域農業担い手シンポジウム」
主催：阿蘇地域振興局、阿蘇地域認定農業者連絡協議会、阿蘇地域農業振興協議会

詳しくは、各研究所にお問合わせください。



「くまもと農業」の未来を拓く
攻めの農業技術開発 3

胸囲から褐毛和種子牛の
体重が推定できる

子牛の発育を把握するには、体重を知ることが重要です。しかし、体重計を持っている繁殖農家は少ないため、体重測定はほとんど行われていません。

そこで、繁殖農家において簡単に測定できる子牛の胸囲の値から体重を推定する方法を開発しました。

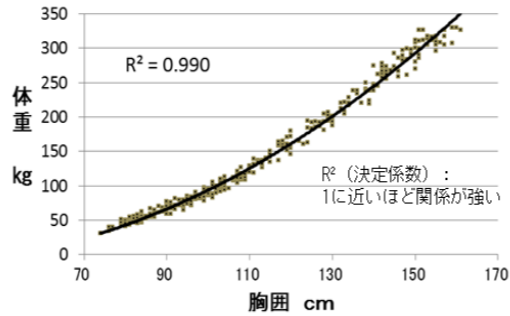
1. あか牛(子牛)の胸囲を測る



胸囲の測定は、飼料を給与した後、2時間以上経過してから実施してください。

2. 体重を推定する

胸囲と体重の関係は非常に強く、体重は胸囲の2次曲線で表されます。



◆推定体重(kg) = 3.176 - 1.140383 × 胸囲(cm) + 0.020493 × [胸囲(cm)]²

上記の計算式により推定体重が求められますが、早見表を利用するとより簡単に推定体重を知ることができます。

早見表は、当センターHPに掲載しておりますので、ご参照ください。

胸囲(cm)	推定体重(kg)
119	158
120	161
121	165
・	・
・	・

http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_11653.html

農研NOW

No.15 冬号 平成28年1月

目次

- ラボから新技術
- 「肥の豊」の枝梢管理法 P.2
- 種ショウガの温湯消毒法 P.3
- あか牛子牛の体重推定法 P.4



ぶいびーぜろよん
「熊本VB04」

本県育成オリジナル2品種 品種登録

「熊本EC11」

当センター果樹研究所で育成したみかんの新品種。高精度で中袋が軟らかく、良好な味が特徴です。
みかんの最大需要期である12月に出荷できる高品質みかんです。
平成11年から14年の歳月をかけて育成。平成25年に品種登録出願し、平成27年9月に登録されました。
今年の春から県内生産者へ苗木の供給開始を予定しています。

「熊本VB04」

当センター農産園芸研究所で育成した白ニガウリの新品種。既存の白ニガウリ品種に比べて収量品質ともに優れています。
平成18年から6年の歳月をかけて育成。平成24年に品種登録出願し、平成27年11月に登録されました。
食の多様化に対応した地域の新規品目として期待されています。



いーしーじゅういち
「熊本EC11」

KUMAMOTO Pref. 農業研究センター
〒861-1113 熊本県合志市栄3801
tel 096-248-6411
fax 096-248-7039
E-mail: noukenkikaku@pref.kumamoto.lg.jp

本紙の内容に関するお問い合わせは、企画調整部 情報課 までご連絡ください

管理部
総務課
経理課
096-248-6412
企画調整部
企画課
情報課
096-248-6423

農産園芸研究所
作物研究室
矢部試験地
バイオ育種研究室
花き研究室
野菜研究室
096-248-6444
生産環境研究所
環境保全研究室
土壌肥料研究室
施設経営研究室
病虫害研究室
096-248-6447

畜産研究所
大家畜研究室
中小家畜研究室
生産基礎技術研究室
飼料研究室
096-248-6433
茶業研究所
096-282-6851
い業研究所
アグリビジネス支援室
育種・栽培研究室
加工・機能性研究室
野菜栽培研究室
0965-52-0372

草地畜産研究所
0967-32-1231
果樹研究所
常緑果樹研究室
落葉果樹研究室
病虫化学研究室
0964-32-1723
高原農業研究所
0967-22-1212
球磨農業研究所
0966-45-0470
天草農業研究所
0969-22-4224

「くまもと農業」の未来を拓く 攻めの農業技術開発 1

施設栽培におけるヒリュウ台「肥の豊」の 早期樹冠拡大のための枝梢管理法

加温栽培のヒリュウ台「肥の豊」は、従来のカラタチ台「不知火」に比べ、減酸が早く高品質果実が生産されやすいことから、県内で栽培面積が増加しつつありますが、苗からの仕立て法が確立されていませんでした。

そこで、施設栽培における未結果期の早期樹冠拡大を図るための枝梢管理法を確立しました。

1. 1年生樹は主枝候補を4本育成する

1年生樹では、主幹先端付近から発生する新梢を主枝候補として4本残し、8葉程度展葉したら摘心します。その後発生する新梢は、各先端の1本のみを残して8葉程度で摘心し、これを繰り返すことで、樹高が高くなります。(図2)

2. 主枝を3本にし、主枝先端をせん除

その後、主枝を3本にし、2月までに、最後に発生した新梢の節の下せん除します。(図3)

3. 2年生樹は主枝先端と側面から発生する春梢を15cm間隔で残す



写真1: 芽かき・摘心した1年生樹

2年生樹から発生する春梢は、地面から50cm程度の高さから発生しているものを起点に15cm程度の間隔で4本残して他を芽かきし、その後発生する新梢は、主枝・亜主枝と競合する枝を芽かき・せん除することで早期に樹冠が拡大します。(図4)



写真2: 春梢を4本残した2年生樹

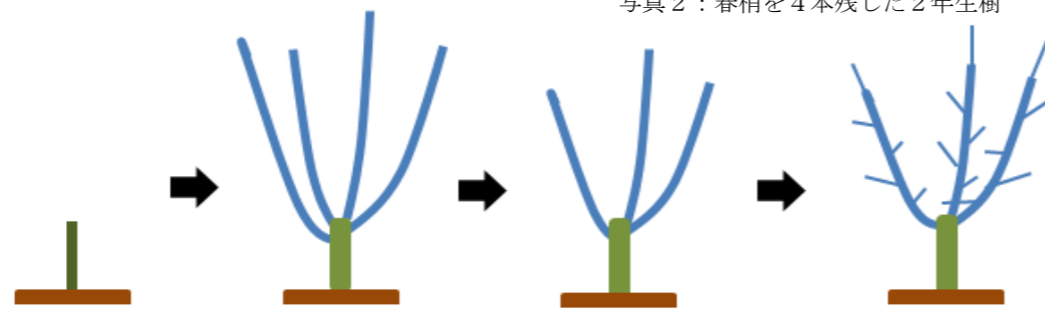


図1: 1年生樹 (購入苗等)

図2: 1年目は主枝候補を4本育成する

図3: 12~2月に主枝を3本にして、主枝先端をせん除

図4: 2年生樹では、主枝先端と側面から発生する春梢を15cm程度間隔で残す

「くまもと農業」の未来を拓く 攻めの農業技術開発 2

産地における種ショウガの 効率的な温湯消毒法

ショウガ根茎腐敗病に対する対策は、第一に健全な種を使用することです。健全な種を確保できない場合や購入等により根茎腐敗病の感染を確認できない場合は、温湯消毒法が有効です。しかし、種ショウガで使用できる温湯消毒機は1回に処理できる量が30kgと少なく、また、産地で温湯消毒が実施できる期間は作業工程上、定植前2週間程度に限られています。その期間で、大量の種ショウガを消毒するには、効率的な処理方法が必要になります。そこで、定植に必要な大量の種ショウガを処理する実用的な温湯消毒法を確立しました。

の処理を行います。これを繰り返すことで、15分間隔で30kgの種ショウガの処理が可能となり、1台の温湯消毒機で1日(8時間)当たり種ショウガ600kg(10a分)を処理することができます。



写真2: 温湯消毒機での処理の状況

2. 温湯消毒後の保存

温湯消毒後は、ショウガの温度を完全に下げて定植まで貯蔵庫で保存します。

種ショウガを貯蔵庫で2週間保存しても定植時の発芽や定植後の立茎には影響しません。また、根茎腐敗病に対する防除効果も認められます。

表: 処理時期が生育や発病に及ぼす影響

処理時期	定植時の		定植93日後の
	発芽率(%)	立茎株率(%)	
2週間前処理	38.2	100	0
1週間前処理	30.4	100	0
定植当日処理	33.2	100	0
温湯消毒なし	33.2	100	4.5

温湯消毒法は種ショウガの中にある病原菌からの感染を防ぐ方法です。温湯消毒だけでなく、ほ場の防除対策も忘れずに行いましょう。

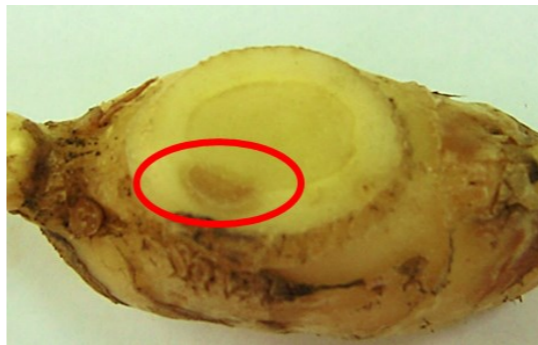


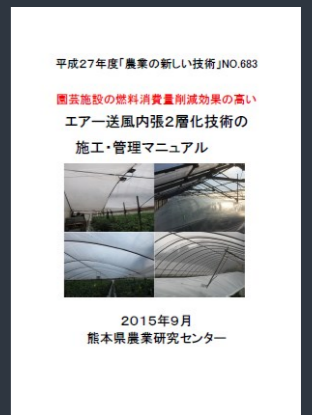
写真1: ショウガ内部に見られる根茎腐敗病

1. 温湯消毒の方法

汎用型温湯消毒機(温湯400ℓ)で種ショウガの処理をするための温湯(設定温度52℃)の準備に約3時間を要します。設定温度に達したら、15kg入りのコンテナを2つ投入し10分間処理します。ショウガを投入すると一時的に水温は下がりますが、処理後、5分程度で設定温度に戻ります。設定温度に戻ったら、次

園芸ハウスの 燃料消費量削減 「エア送風内張り 2層化技術」 施工・管理マニュアル

平成27年度「農業の新しい技術」で公表した本成果について、施工法や管理の仕方をわかりやすく解説したマニュアルが出来ました。



本技術を導入すると、冬期における燃料消費量は従来の内張り2層に対し84%に抑えられます。

また、必要な資材費や削減される重油代などを基に試算すると、内張り1層より10a当たり年間約8万2千円の経費削減となります。

本マニュアルは、当センターHP(研究の成果)からご覧いただけます。

http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_12689.html

農業試験研究に関する ニーズ募集

平成29年度農業関係試験研究課題化へ向けて、生産者を始め関係者のニーズを広く募集しています。

品種、栽培技術、飼養管理技術などで課題になっていることはありませんか?

1 募集期間

平成28年2月1日~29日

2 提出様式

当センターHPからダウンロード



http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_1099.html

3 提出方法

郵送:〒861-1113 合志市栄3801

「農業研究センター情報課」宛

メール: noukenkikaku@pref.kumamoto.lg.jp

全ての御要望を試験課題として設定できるとは限りませんが、「稼げる農業」を目指した試験研究推進の参考とさせていただきます。

